

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

良書をはじめて読むときには、新しい友を得たようである。
前に精読した書物を読みなおすときには、旧友に会うのと似ている。
 ~ オリヴァー・ゴルドスミス(イギリスの詩人・劇作家・小説家)の言葉です ~

1. 『はかれないものをはかる』

とても奥が深いタイトルがついたこの絵本。表紙を開きますと、著者の工藤さんが描くユーモラスで可愛いイラストが並び、それぞれに「はかれないものをはかる」一文が添えられています。例えば「心の扉の強度を測る」、「一目ぼれの電圧を測る」、「過去のことは水に流すのに必要な水量を量る」などです。……なんだかハッとさせられますか? これまであまり気に留めていなかった「日常に溢れるはかれないもの」を言葉に表した本書は、著者の視点の面白さを感じるとともに、「自分自身はどれくらいだろう?」と自分の心と向き合う時間をもたらしてくれます。一文一文を大切に、噛みしめながら読みたくなる本です。

『ヨハネの黙示録』にある「神の聖所と祭壇と、そこで礼拝している人々とを、測りなさい」という一節との出会いが本書を描くきっかけになったという工藤さん。この一節に「一人一人の心にある信心の深さや強さを注意してみる」というメッセージを受けた工藤さんは、数字では表せない感情や言葉、出来事の質や重みをはかってみようと、様々な思考を巡らせ本書を作り上げたそうです。

心にそっと明るさを灯してくれる、温もりに包まれた絵本です。一日の終わりを、この絵本とともに過ごしてみませんか。



はかれないものをはかる
(工藤あゆみ 著/青幻舎)

2. 日本の古典をよむ⑩『おくのほそ道』

松尾芭蕉(1644~1694)が著した俳諧紀行文*1『おくのほそ道』は、芭蕉と弟子の曾良とが約半年間に渡って旅した様子が記されています。旅先は主に東北から北陸地方で、その行程を地図で眺めると「一体どれだけの距離を歩いたのだろうか?」とただただ驚くばかりです。彼らの足跡を追って各所を訪ねてみたい、そんな気持ちにさせてくれる古典です。

冒頭部分の「月日は百代(はくたい)の過客(かかく)にして、行きかふ年もまた旅人なり。」は「月日というものは永遠に旅を続けてゆく旅人であり、来ては去り、去っては来る年々もまた同じように旅人である」という意味ですが、時間を旅人に例えるなんて、最初から心をぐっと掴まれてしまいますね。また、芭蕉が詠んだ有名な句のひとつに「夏艸(なつくさ)や兵共(つわもの)が夢の跡」がありますが、これは現在の岩手県平泉町で詠まれた句で、かつてその地で栄華を極めた奥州藤原氏や彼らに縁のある源義経に思いを馳せて詠まれました。毎年変わることなく生い茂る「夏艸」と、限られた時間の中で生きる「兵共」の対比は、芭蕉が説く「不易流行*2」の思想が表れています。



日本の古典をよむ(20)
おくのほそ道 芭蕉・蕪村・茶名句集
(井本農一ほか 校訂・訳/小学館)

*1 はいかいきこうぶん/旅先での出来事や旅の途中で詠んだ俳句を綴った旅行記 *2 ふえきりゆうこう/変わらぬものと変化してゆくもの意

3. 『遺したい日本の風景Ⅲ 駅舎』

JR 高崎線の深谷駅が本書 p.65 に掲載されています。レンガ造りの美しい駅舎が「映(ば)えています」。平成8(1996)年に改築された現在の深谷駅は、深谷レンガにゆかりのある東京駅に模して造られたそうです。

深谷と言えば全国的に「ネギ」が有名ですが、実は「レンガ」の街としても知られています。明治20(1887)年に深谷市の偉人・渋沢栄一翁が設立した日本煉瓦製造株式会社*1で作られたレンガは、明治から大正時代の代表的なレンガ建造物に使用されました。例えば、東京駅丸の内本屋や旧東宮御所(現迎賓館赤坂離宮)、日本銀行、東京大学などが挙げられます。

『遺したい日本の風景Ⅲ 駅舎』には深谷駅のほかに、懐かしく温かな駅舎の風景写真が並んでいます。深く印象に残っているのは、JR 指宿枕崎線・西大山駅(鹿児島県/p.4)とJR 飯田線・東栄駅(愛知県/p.46)です。前者は息を呑むような写真の美しさと構図に、思わずページをめくるのを忘れてしまうほど引き込まれてしまいます。後者は鬼の面をモチーフにした駅舎がとてもユニークで、一見駅とわからない外観に興味を惹かれます。

新型コロナウイルス感染症の影響で気軽に出かけられない昨今。心だけでも旅をしてみませんか?



遺したい日本の風景Ⅲ 駅舎
(日本風景写真協会 編/光村推古書院)

*1 残念ながら平成18(2006)年に約120年の歴史に幕を下ろしました。同社のレンガ工場が現在の深谷市上敷宛にあり、工場の一部は国指定重要文化財に指定されています。

◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

すべて世の中の事は、もうこれで満足だという時は、
すなわち衰える時である。

【『渋沢栄一訓言集』国家と社会】



「物事を達成したいと努力している時こそ、本当の幸福である」という意味です。目標を成し遂げた時や願いが叶った時は満ち足りた気持ちになりますが、同時に一抹の寂しさ、物足りなさを感じたことはありませんか? 満足は衰退の第一歩。満足を求めて努力している時こそ、一番充実しているのです。

※格言は『渋沢栄一 100の訓言』渋澤健・著/日本経済新聞出版社 p.112より転載

◆ 国家試験問題を解いてみよう ◆

看護師 国際連合(UN)で採択された2016年から2030年までの開発に関する世界的な取り組みはどれか。

1. 持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)
2. ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)
3. プライマリヘルスケア
4. 政府開発援助 (ODA)

※ 問題はメディックメディア『QB 看護師国家試験問題解説 2022 付録「第110回看護師国家試験問題&解説」』p.19より出題(解答は裏面をご覧ください)

看護観の原点 ～ブラック・ジャック～

成人看護学領域 佐々木純子



現代における医療系の漫画は、よりリアルで内容も実際の臨床をより忠実に再現しているものも多く、医療者である私たちも考えさせる主題であることも度々です。その中でも私の愛読しているレポーター中の一押しは、手塚治虫の『ブラック・ジャック』です。天才的な技術を持つ無免許外科医師として、様々な立場にある患者に対して手術を成功させていく医師の話です。

『週刊少年チャンピオン』(秋田書店)にて1973年11月から1983年にかけて連載された全242話です。だいぶ古い時代の漫画です。私は、単行本として全25巻持っています。「疾患や治療」、時には「ヒューマンケア」に至るまで、「医療と生命」をテーマに様々なドラマが1話1話にまとめられており、漫画にとどまらず、医療界における哲学までも網羅されているのではないかと崇拝している逸品です。いわば私の看護観及びバイブルでもある存在です。

小学校の時に友達が所有しており、手術場面など恐る恐る読み、高校生になってからは、将来の進学を決める時期に、再度『ブラック・ジャック』を読み返し、人を相手にする仕事の延長として医療を目指すきっかけにもなった作品です。

漫画の中の名セリフをいくつか紹介します。

第25話「人間が生きものの生き死にを自由にしようなんて おこがましいとは思わんかね……」

第51話「神さまとやら!あなたはざんこくだぞ 医者人間の病気をなおしてのちを助ける!その結果 世界中に人間がバクハツ的にふえ 食料危機がきて 何億人も飢えて死んでいく…… そいつがあなたのおぼしめしなら…… 医者はなんのためにあるんだ」

第102話「流れ星になって 十…二十…と毎日消えていこうに見えるも 星の数はいっこうにへらない 病気ってやつは この星空みたいなもんだねえ なア 妹さん」
勉強に疲れたら、気分転換に読んでみてはいかがでしょう? きっとあなたの心に熱い何かを感じるはずですよ。

浮世絵劇場 from Paris



日本を代表する美術である浮世絵。1867年にフランス・パリで開催された万国博覧会に出品された浮世絵は、19世紀末のヨーロッパで「ジャポニスム」という日本美術の一大ムーブメントを巻き起こしました。「浮世」とは「現世」のこと。

日本人にとって「身近な今を写す絵」であった浮世絵は、現在で言う広告やファッション誌、旅行誌、テレビ、インターネット、そしてインスタグラムのような「メディア」として存在していました。浮世絵の始祖と言えば、『見返り美人図』で知られる菱川師宣です。皆さんのよく知るところでは、葛飾北斎の『富嶽三十六景』や歌川広重の『東海道五十三次』などが挙げられますでしょうか。浮世絵は絵師が一人で描いている印象がありますが、実は「版元」「絵師」「彫師」「摺師(すりし)」の共同作業によるもので、時代の流れとともに様々な流派が生まれ、今なお愛される色彩豊かな作品が次々と生み出されました。

パリをベースに活動するアーティスト集団ダニーローズ・スタジオは、浮世絵にテクノロジーとストーリーとを掛け合わせ、全く新しい巨大映像空間を創り上げました。フランス国内で計200万人が体験し、大盛況を収めたDreamead Japan “Images of the Floating World”が、この度大幅にパワーアップして日本に凱旋帰国中です。1,100㎡を超える大空間に12幕の異なる映像シーンが映し出されるほか、本展で使用した浮世絵や新たな感性をもつ現代浮世絵師たちの作品を紹介するコーナーを設け、今なお進化し続ける「浮世絵の今」を存分にご堪能いただけます。

扇が時を刻み、提灯が宙を舞い、桜の花びらが風に揺れ、荒波がリズムにあわせて頭上を駆け巡る。360度映像に包まれた広大なスペースで展開される「浮世絵劇場」を、ぜひ全身でご体感ください。



Copyright: ©Danny Rose Studio ©Kadokawa Culture Museum (画像の転載ならびにコピー禁止) 参考文献: 1「浮世絵劇場」関連資料 2株式会社公文教育研究会HP「くもん子ども浮世絵ミュージアム」3小学館HP「ニッポンの浮世絵」(図説) 場所: 角川武蔵野ミュージアム1階グランドギャラリー(〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田 3-31-3) 期間: 2021.10.30(土)~2022.4.10(日) 開館時間: (日~木曜) 10:00~18:00 (金・土) 10:00~21:00 ※入館は開館30分前まで 休館日: 第1・第3・第5火曜日 ※休館日が祝日の場合は開館 翌日開館 ※祝日開館日の営業時間は該当する曜日に準ずる 入館料: (当日窓口購入価格(税込))一般(大学生以上)2,400円/中高生: 2,000円/小学生: 1,300円/未就学児: 無料 ※オンラインで日時指定券も販売しています。当日券購入も可能ですが、売切れになる場合もありますので、事前にご購入されることをお勧めいたします。角川武蔵野ミュージアムHP: <https://kadokul.com/> ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のご協力をいただいております。詳しくは美術館HPをご覧ください。

◆図書館からのお知らせ◆

NHK大河ドラマ「青天を衝け」が間もなく最終回を迎えます。吉沢亮さんが演じる渋沢栄一翁は、エネルギーとともにも魅力に溢れ、毎週日曜日の夜を心待ちにしていました。しばらくは「栄一ロス(吉沢ロス?)」になりそうです。大河ドラマは終わっても、当学の栄一翁熱は冷めません。2024年には栄一翁が肖像となる新一万円札の発行が控えていますし、何より皆さんは「青淵学園」(「青淵」は栄一翁の雅号)の名のもとで学ばれていらっしゃるから、今後ぜひ栄一翁の教えにたくさん触れていただきたく存じます。図書館内の〔渋沢栄一コーナー〕にはNHK大河ドラマ「青天を衝け」をはじめ、栄一翁に関する書籍がたくさん揃っています。ぜひ栄一翁の哲学に触れ、ご自身の魂を磨いてみませんか。栄一翁の教えは胸にズシリと響くものばかりで、身が引き締まります。

ポインセチア

いまやクリスマスの花の代名詞と言えるポインセチア。原産地はメキシコで、17世紀頃、ポインセチアに出会ったキリスト教徒がその色合いに魅せられ、クリスマス飾りに用いたのが始まりとされています。赤・緑・白はクリスマスカラーと呼ばれ、赤は「キリストが流した血」、緑は「永遠の命や愛」、白は「純潔」を表しています。赤と緑の葉と、白い樹液をもつポインセチアはまさに「クリスマスの花」だったのでね。花言葉は「祝福」「聖夜」「幸運を祈る」。今は黄色やピンク色など色とりどりのポインセチアが開発され、クリスマスを彩っています。ちなみに和名は「猩猩木(しょうじょうぼく)」と言います。ポインセチアの様子が「猩猩」(酒好きで紅色の長毛をもつ架空の動物)に見立てられ、この名が付いたそうです。同じような名前を持つ「猩猩袴(しょうじょうばかま)」という花がありますが、こちらは「飲みすぎに気をつけて」という花言葉を持ちます。

国家試験問題(表面)の正解は1.

※解説はメディックメディア『QB 看護師国家試験問題解説2022 付録「第110回看護師国家試験問題&解説」』p.100参照。

